紀要

第 67 号

（令和4年度版）

2023

埼玉県高等学校体育連盟

高体連のマーク

競技は力であり、進歩は技の錬磨にまつ。しかし、競技者はこれをつつむ明朗な精神をもってせねばならない。

このマークを構成している三つのＫはこれを意味している。

KRAFT	力
KUNST	技
KLARHEIT	明朗な精神

そして真紅の色彩は高い理想と希望に燃える若人の情熱を示すものである。

令和４年度　全国高等学校総合体育大会

大会愛称

躍動の青い力 四国総体 2022

スローガン

燃え上がれ我らの闘志 四国の大地へ

シンボルマーク

総合開会式

令和４年７月28日　アスティとくしま

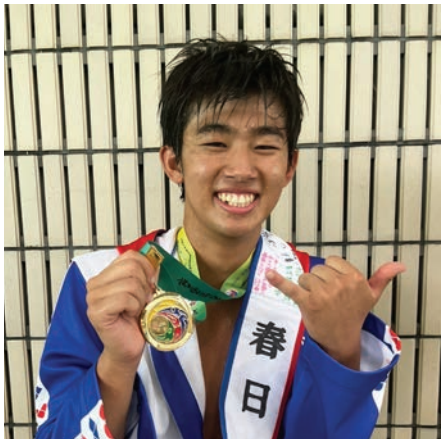
埼玉県選手団の入場行進

＜柔道＞
男子100kg 級で２連覇した新井道大選手（埼玉栄）

＜柔道＞
女子57kg 級で優勝した新井心彩選手（埼玉栄）

＜自転車＞
女子ケイリンで優勝した中島瞳選手（県立川越工業）

＜ウエイトリフティング＞
男子 +102kg 級Ｃ＆Ｊ大会新記録で優勝した
鈴木夏空選手（埼玉栄）



＜競泳＞
男子200m 個人メドレーで優勝した
入江秀行選手（春日部共栄）

＜競泳＞
女子200m バタフライで優勝した
関根倖彩選手（春日部共栄）

＜相撲＞
個人戦で優勝した高山瞬佑選手（埼玉栄）

＜相撲＞
個人80kg級で優勝した清宮健史選手（埼玉栄）

知事表敬訪問　　令和４年９月９日　知事公館

知事・県議会議長と優勝者の記念撮影

選手を代表してお礼の言葉を述べる
柔道　新井道大選手（埼玉栄高校）

令和４年度 全国高等学校総合体育大会 埼玉県選手団結団式

激励のことば　大野元裕　埼玉県知事

激励のことば　中屋敷慎一　埼玉県議会議長

旗手
寺下しおん
（細田学園高校　バレーボール部）

激励費贈呈
中濱太一
（県立ふじみ野高校　体操競技部）

誓いのことば
山内そよ
（県立大宮東高校　陸上競技部）

令和４年度 学校総合体育大会 総合開会式

令和４年５月11日（土）
熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

優勝杯返還

挨拶
日吉　亨　県高体連会長

激励の言葉
中田　次夫　埼玉陸上競技協会会長

選手宣誓
代表：平野倖大（埼玉栄高校）

もくじ

グラビア
あいさつ……会長　日吉　亨……2
特別寄稿……埼玉県教育局県立学校部保健体育課長　松中直司……3
特別寄稿……埼玉県県民生活部スポーツ振興課長　浪江美穂……4
特別寄稿……公益財団法人埼玉県スポーツ協会専務理事　久保正美……5
専門部特集によせて……埼玉県高等学校体育連盟理事長　鈴木紀幸……7
支部だより（東部・西部・南部・北部）……8

専門部活動記録特集
1 陸上競技……12
2 バスケットボール……31
3 サッカー……38
4 ソフトテニス……42
5 卓球……46
6 ラグビー……54
7 ボート……60
8 柔道……64
9 剣道……68
10 体操……74
11 水泳……78
12 相撲……96
13 バレーボール……100
14 ソフトボール……104
15 バドミントン……107
16 自転車……115
17 ハンドボール……119
18 弓道……123
19 テニス……129
20 登山……135
21 スケート……137
22 レスリング……139
23 ボクシング……142
24 フェンシング……146
25 ウエイトリフティング……153
26 スキー……156
27 ホッケー……163
28 馬術……165
29 空手道……167
30 アーチェリー……175
31 カヌー……183
32 なぎなた……187
33 少林寺拳法……189
34 ダンス……194
35 ライフル射撃……198

各種目専門部指導者紹介……204
研究部報告……206
定通部報告……208
埼玉県選手団成績一覧……219
第64回　座談会「部活動指導の現状と課題」……223
第65回　練習場めぐり　その1　県立川越工業高等学校自転車競技部……237
その2　栄東高等学校アーチェリー部……241
第75回　学体協講習会「指導者が知っておくべき学校現場における救命救急の知識
～ＡＳＵＫＡモデルから学ぶ～」
東京慈恵会医科大学　佐藤浩之
さいたま市立植竹中学校長　山下誠二……245
本部事業・連盟概要……253
令和4年度表彰者一覧……255
編集委員……290

・表紙・題字　元会長　木村泰夫
・表紙図　ドリコス（DOLICHOS：長距離走）、黒絵式パンアテナイア祭の壺。
ニココクラテースの執政官ニコクラテスが所有した物。B.C.333　ロンドン大英博物館所蔵。

あ　い　さ　つ

埼玉県高等学校体育連盟会長　日　吉　　亨

私は、令和４年４月に埼玉県高等学校体育連盟の会長に推挙され、就任いたしました。このような大きな組織の運営に戸惑いを感じながらの１年でしたが、副会長をはじめ役員の皆様方、そして各学校の会員の皆様方から御理解、御支援をいただき、令和４年度の諸事業も滞りなく終了することができました。これも皆様方の御協力の賜と厚く御礼申し上げます。

さて、今年度を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症の流行が始まってから３年が経ち、社会全体も「with コロナ」が定着してきました。これまでの部活動においては、活動中止や活動時間の制限、公式大会の中止、陽性者の発生による参加辞退など、生徒や顧問の先生方にとって苦しい時期でしたが、今年度は、感染防止を徹底した上で少しずつコロナ以前の活動に近づけることができたように思います。インターハイにおいても今年度は関係者の御尽力のもと感染防止対策を徹底した上での有観客での開催となりました。

本県の高体連の主催大会においては、今年度は全ての大会を実施することができました。体調管理や換気、手指消毒、会場への入場制限などの感染防止対策を徹底した上での開催となりましたが、日々のたゆまぬ努力を積み重ねてきた選手にとっての活躍の舞台を無事に設けることができ、大会に運営に関わっていただいた各専門部の役員の皆様、各学校顧問の皆様、保護者の皆様の多大なる御協力があってのことと、改めて感謝申し上げます。

また今年度は、インターハイ冬季競技において、本県開催としては、昭和52年度第27回大会以来２度目となるフィギュアスケート競技を埼玉アイスアリーナにて開催させていただきました。開催までの準備期間が短い中にもかかわらず、成功裏に終えることができましたことは、大会関係者の皆様の御尽力によるものと、深く御礼申し上げます。

次に、これからの運動部活動についてですが、国は令和４年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の推進とともに、休日の学校部活動の地域連携や地域移行など具体的な考え方が示されました。

このガイドラインに示される内容は、主に中学校を対象としており、高等学校は実情に応じてとなっておりますが、今後は、地域クラブ活動で大会に参加していた生徒たちが、高校へ進学してくることになります。本県高体連といたしましても、このことについてどのように対応していくのか、国や県の方針を待つばかりでなく、主体的に検討し、改善策を打ち出す必要があると考えております。学校教育の一環として発展してきた運動部活動が、今後もより良い形で持続され、生徒の健全な育成に寄与することができるよう、関係の皆様方の御知恵を拝借しながら新しい部活動の在り方を検討していきたいと思います。

次に、体罰根絶についてです。学校教育の一環として行われる運動部活動は、日々の活動を通して、スポーツの喜びや楽しさ、充実感や達成感などを味わわせる大変意義のある活動であり、生徒が安心して安全な活動が行えるよう配慮されなければなりません。しかしながら、残念なことに未だ体罰は根絶に至っておりません。あらためて、生徒を守る立場にある顧問や指導者から、生徒の人権を脅かす行為が行われることがないよう各専門部が一丸となって対応するようお願いいたします。

次に、高体連の活動においては、各種大会の運営に限らず、「体育・スポーツに関する研究調査」も柱の一つとなっております。毎年開催されております、指導者のインターハイと呼ばれる「全国高等学校体育連盟研究大会」につきましては、令和６年度に埼玉県開催が決定し、令和５年度からは本格的な準備がスタートします。

この研究大会は、課題研究・シンポジウム、基調講演などで構成される全体会と「競技力の向上」「健康と安全」「部活動の活性化」をテーマにした３つの分科会が行われます。埼玉県大会の円滑な開催に向けて御協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、日頃の運動部活動に御尽力いただいております顧問の皆様、陰ながら御支援をいただいております保護者の皆様をはじめ、関係の皆様方の御健勝と御活躍を心より祈念申し上げるとともに、今後とも、埼玉県高等学校体育連盟のさらなる発展のための諸活動に、より一層の暖かい御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

特別寄稿

令和４年度を振り返って
～持続可能な教育活動に向けて～

埼玉県教育局県立学校部　保健体育課長　**松　中　直　司**

埼玉県高等学校体育連盟の皆様には、日頃、本県高等学校体育・スポーツの振興と発展に御尽力賜り、厚く御礼申し上げます。

令和２年１月、国内にて初めて新型コロナウイルス感染症が確認されてから３年が経過し、感染防止対策としての「新しい生活様式」が私たちの日常となりました。未だ終息には至っておりませんが、適切な感染防止対策の日々を積み重ねてきたことにより、ポストコロナ社会に向けて様々な活動や対応がようやく緩和の方向に動き始めています。この間、貴連盟の皆様方には、教育活動を停滞させないよう、学校現場において御尽力いただいていることに、心より敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、今年度も世界陸上、ＦＩＦＡワールドカップ・カタール2022など国際的なスポーツイベントが数多く開催されました。多くのスポーツに触れる機会を通して、日本勢の活躍に大きな感動と誇りをもらい、改めてスポーツの持つ多様な価値や魅力に触れる素晴らしい機会となりました。

専門部及び定通部の大会等を振り返りますと、本県主催の関東大会として、６月に自転車、バドミントン、アーチェリー、なぎなた、テニスの５競技が本県で、12月にアイスホッケー競技が栃木県で開催されました。各専門部の皆様方の御尽力により、新型コロナウイルス感染防止対策に細心の注意を払いながら無事終了することができましたことに、改めて御礼を申し上げます。

７月から８月には、徳島県・香川県・愛媛県・高知県・和歌山県の５県で「躍動の青い力　四国総体2022」が開催されました。入賞数は、冬季大会及びインターハイ以外の全国大会を含めて、団体21、個人75の合計96を数えました。全国高等学校定時制通信制大会においては、団体９、個人16の合計25の入賞を果たしました。さらに、栃木県を中心に３年ぶりに全種目で開催となりました「第77回国民体育大会」では、総合成績で天皇杯第３位、皇后杯第４位という素晴らしい成績を収められ、今年度も本県の競技力の高さを全国に強く印象付けていただきました。

このことは、生徒の頑張りはもとより、先生方の日頃の御指導をはじめ、貴連盟各専門部と各競技団体との組織的な連携による選手育成・強化の賜物であると敬意を表します。こうした競技力向上の背景には、各専門部において実施していただいている「部活動指導者講習会」をはじめ、常に生徒の模範となって学び続けている先生方の姿勢があるものと確信しております。令和５年度開催の「翔び立て若き翼　北海道総体2023」や「かごしま国体」等においても、各専門部の飛躍を大いに期待いたします。

研究部に目を向けますと、令和６年度に本県にて開催される第59回全国高等学校体育連盟研究大会に向けて、「競技力向上」「健康と安全」「部活動の活性化」の観点からの研究活動や大会運営の準備を進めていただいております。この大会は、高等学校体育・スポーツ指導者の資質向上を図るとともに、当面する諸問題について情報交換し、高等学校教育の一環としての体育・スポーツの振興・発展に資することを目的としております。実り多き埼玉大会となりますよう、引き続き着実に準備を進めていただければと存じます。一方、１月の高等学校保健体育研究協議会（保体研）の全体会におきまして、研究部委員長より部活動指導員や外部指導者に関する実情を中心に説明していただきました。教員の負担軽減の観点も踏まえながら、顧問教員のニーズや抱えている課題等を知ることができ、今後の運動部活動を運営していく上で、貴重な情報共有をさせていただきました。

今年度も実技研修や運動部活動指導者講習会につきましては、講師等の御協力により机上研修とさせていただきました。他方、ＩＣＴの有効活用の観点から、第２回体育主任会及び保体研につきましては、初めてオンライン開催いたしました。役員をはじめ参加者の御協力の下、活発な研究協議や情報交換を行っていただき、保健体育科教員の資質向上に向けて有意義なものとなりました。今後も、より多くの先生方が主体的に御参加いただける事業となるよう、内容の充実や実施方法の工夫等に取り組んでまいります。

今、中学校の部活動は大きな転換期を迎えております。国は、令和４年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、休日の学校部活動の地域連携・地域移行について、地域の実情等に応じて可能な範囲で早期の実現を目指すことを示しました。主な対象は中学校ではありますが、平成30年告示の高等学校学習指導要領に明記されているとおり、高等学校の部活動においても今後ますます地域との連携が大切となり、社会に開かれた教育課程を実現していく上でも重要性は増していきます。部活動の主役は生徒であり、その大切さや教育的効果は、これからも変わらないと考えております。その上で、急激な少子高齢化時代を迎えるとともに、持続可能で多様な活動や学校の働き方改革の視点等を踏まえた活動が求められていることも事実でございます。これからの未来社会の創り手となっていく生徒の健やかな育成に向けて、地域や社会と一層連携しながら、部活動が真に教育的意義の高い活動となりますよう、引き続き適切な指導体制の構築をお願いいたします。

併せて、生徒の心身の健康管理、事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶の徹底に御留意いただきますようお願いいたします。

県教育委員会といたしましても、外部指導者の有効活用や部活動指導員の配置拡大、部活動のフォローアップ等、可能な限り支援をさせていただき、部活動が持続可能な教育活動となりますよう尽力してまいります。

結びに、埼玉県高等学校体育連盟の一層の御支援・御協力をお願いいたしますとともに、貴連盟のますますの御発展を心から祈念申し上げます。

特別寄稿
レガシーの継承に向けた本県スポーツの振興

埼玉県県民生活部　スポーツ振興課長　**浪　江　美　穂**

埼玉県高等学校体育連盟の皆様には、日頃から本県におけるスポーツの振興発展に御尽力を賜り、心から感謝申し上げます。また高体連会報第67号の発刊、誠におめでとうございます。

はじめに、本県のスポーツの振興に大きく貢献してくれた生徒の皆様、それを支えた保護者の皆様、指導者の皆様に深く感謝申し上げ敬意を表します。特に、令和４年度に本県のスポーツをけん引してくれた高校生の皆様は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、高校生活に大きな支障があった世代です。思うような練習や対外試合ができない中で工夫し頑張り続けても、目標としていた大会が中止や縮小されるなど、悔しい思いを多く経験したことと思います。仲間同士のコミュニケーションの不足やモチベーションの維持にも悩んだことでしょう。現場で指導される先生方の御苦労や、コロナ禍でも頑張る子ども達の姿を見ることもできない保護者の皆様のやるせなさを思うと言葉もありません。

令和４年度になり徐々にスポーツができる環境が戻ってまいりました。７月から８月にかけて行われた全国高等学校総合体育大会では、個人種目で６競技８種目（柔道、水泳（競泳）相撲、ウエイトリフティング、自転車）で優勝を果たしたほか、団体種目では埼玉栄高等学校の柔道部とレスリング部が準優勝を果たしました。

９月には３年ぶりの開催となった秩父宮自転車道路競走大会で、高校生の力走が光りました。

10月には同じく３年ぶりに国民体育大会が開催され、本県は５年ぶりに天皇杯第３位（1932.5点）、皇后杯第４位（1006点）という好成績を収めることができました。この国体では、サッカー、テニス、レスリング、バドミントン、ライフル射撃の５競技で競技別天皇杯、皇后杯を獲得したほか、22の種目で優勝することができました。私も総監督として多くの競技会場へ激励に行きましたが、それぞれの会場で本来の校務から離れたところで御尽力を頂く高体連の皆様の姿を目の当たりにし、改めてこの場をお借りして厚く御礼申し上げる次第です。

国体終了後、同会場で10月に開催された全国障害者スポーツ大会は台風の影響と新型コロナウイルス感染症の影響で４年ぶりの開催となりました。陸上競技や競泳など高校生の活躍が光り、メダル総獲得数78個で、都道府県・指定都市全67選手団中、第５位の成績をおさめることができました。私も現地に参りましたが、障害の有無に関わらずスポーツに真摯に取り組む選手の姿は観る者を感動させ障害に対する理解を深め、スポーツを通じた共生社会の実現の可能性を強く感じました。

さて、県ではラグビーワールドカップ2019日本大会、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを受け継ぎ、本県のスポーツをさらに発展させていくために、３つの取組を始めております。１つ目として、令和４年度から組織体制を大きく変えました。福祉部から障害者スポーツ担当を移しスポーツ行政の一元化を図りました。また、プロチームと連携した地域活性化や地域課題の解決のためにスポーツ連携・企画担当を設けております。２つ目として、スポーツ科学の知見を活かした競技力の向上を進めております。令和３年度から中学生を対象とした「彩の国プラチナジュニア」育成事業をスタートさせ、小学５年生からのプラチナキッズ、中学生を対象としたプラチナジュニア、高校生以上を対象としたプラチナアスリートと、一貫してサポートする体制を整え、競技団体、高体連の皆様の御協力のもと事業を行っております。３つ目は大規模スポーツ施設の整備です。国内主要大会の開催や競技力の向上、県民が水と親しむ環境の創出などの機能を備えた県内初の公営屋内50ｍ水泳場を川口市神根運動場及び神根公園内に整備するため、準備を進めております。また、パラを含む多様な競技の競技力向上、人材育成、県民のスポーツ実施率の向上・健康づくりなどを目的とし、上尾運動公園の再整備と一体的に整備するスポーツ科学拠点施設について、令和４年度中の基本計画策定に向け検討を進めております。両施設とも高体連の皆様のご期待に沿えるよう整備に努めてまいります。引き続き、県のスポーツ施策に対しまして、御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、埼玉県県高等学校体育連盟の益々の御発展と、加盟各校選手の皆様の更なる御活躍を心から祈念申し上げます。

特別寄稿
高体連の更なる発展を願って

公益財団法人埼玉県スポーツ協会　専務理事　久　保　正　美

埼玉県高等学校体育連盟の皆様には、日頃から本県高等学校における体育・スポーツの充実・発展にご尽力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

さて、令和４年度を振り返ると、７月23日から８月23日までの期間「燃え上がれ我らの闘志　四国の大地へ」の大会スローガンのもと、四国４県を中心に全国高等学校総合体育大会「躍動の青い力　四国総体2022」が開催されました。私も埼玉県選手団の激励のため大会会場を回らせていただきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、健康チェックシートの提出や入場時の検温、手指消毒などが徹底されておりました。大会の成功に向けて運営に関わった方々、参加された選手・監督の皆さんのご努力に心からの敬意を表したいと思います。

また、埼玉県選手団の皆さんも全国から参加したアスリートとの熱い戦いを繰り広げ、柔道・競泳・相撲・ウエイトリフティング・自転車競技の個人優勝をはじめ団体・個人で88の入賞を果たしました。冬季大会においても、埼玉栄高校が男子駅伝で第４位に、アイスホッケーで第３位に入賞する活躍があり、夏季・冬季大会合わせて90の入賞となりました。しかし、コロナ禍の影響もあり例年と比較すると大幅に入賞者数が減少しました。「翔び立て若き翼　北海道総体2023」での巻き返しを期待しております。

埼玉県スポーツ協会では、スポーツ埼玉の更なる発展のため、令和５年度から９年度を計画期間とする新たな選手強化計画「彩の国アスリート５か年計画」を策定しました。「SAITAMA PRIDE　～スポーツ埼玉の更なる発展を目指して～」をスローガンとし、３つの目標を掲げています。

目標１『国民体育（スポーツ）大会において常に天皇杯・皇后杯３位以上を獲得し、本会創立100周年に当たる令和７年の国民スポーツ大会で天皇杯優勝を目指す』

目標２『国際大会における埼玉県ゆかりの選手８位入賞以上の人数500人以上』

目標３『スポーツ科学に基づく育成・強化推進体制の整備』

これまでの計画は、国体の選手強化に特化したものでしたが、新たな計画は本会をはじめ関係者が一体となって総合的な選手強化を図り、世界に羽ばたくアスリートを輩出しようとするものです。

また、本会が大正14年（1925年）に創立し100周年に当たる令和７年（2025年）の第79回国民スポーツ大会で天皇杯優勝を目指すという大きな目標が特徴です。

しかし、天皇杯優勝といってもそう簡単に実現できるものではありません。正に勝負ですから勝つことも負けることもあります。国体における戦いを経験している方々にとっては夢物語だと思う方も多いと思います。しかし、私たち選手団には埼玉県代表という誇りがあります。埼玉県スポーツ協会としても県内競技団体や高等学校体育連盟、中学校体育連盟の皆さんと力を合わせ一緒に戦ってまいります。

そして、令和５年の特別国民体育大会に向けた具体的な強化基本計画には、昨年の第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」における課題であった「少年男子種別の強化」「女子種別の強化」を揚げました。埼玉県高等学校体育連盟の皆さんの底力を発揮されることを願っています。

さて、昨年12月、国では「学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し発表しました。これは、少子化による部員数減少や教員の働き方改革に対応することを目的として、学校において行われてきた部活動を地域と連携したり地域クラブ活動に移行しようとするものです。まず公立中学校の部活動を対象に進められていますが、地域での受け皿がないこと、地域クラブ活動に参加する際の費用負担の問題、事故に備えた新たな保険加入など課題が山積しており、地域差などを考えると実現が困難な状況です。更に、令和５年度から全国大会や県大会などに、特例として地域のクラブ等が参加することが決まっており、現場における混乱も予想されています。

国はこの部活動改革についての考え方は、「高等学校についても総合的なガイドラインを原則として適用する」としており、今後、高等学校でも中学校と同様の対応を求められることが想定されます。

私は、学校における部活動は、希望する多くの生徒がスポーツや文化芸術活動を体験できる有意義な活動であり、日本が世界に誇る教育文化であると思っています。国や教育委員会、学校、教員、生徒、保護者など関係する皆さんには、学校教育における部活動の意義や必要性、持続可能な条件やあるべき姿などについて十分に議論し、生徒にとってより良い部活動を実現していただきたいと思います。

結びに、埼玉県高等学校体育連盟の益々のご発展をお祈り申し上げます。